



## 越美山地緑の回廊

### 能郷白山と温見峠

越美山地緑の回廊は、越美山地の国有林（延長六六<sup>キロメートル</sup>、面積七二六〇<sup>ヘクタール</sup>）に設置されている保護林を連結することにより、野生動物植物の移動経路を確保し、より広範かつ効果的な森林生態系の保全を図っています。

その中の、能郷白山ブナ植物群落保護林は、面積六四一<sup>ヘクタール</sup>、日本の原生的なブナ帯連続性において重要な林分となっています。

※越美という名前は、越前（福井県）と美濃（岐阜県）の頭文字です。

能郷白山は、岐阜県と福井県にまたがり、標高は一、六一七<sup>メートル</sup>、太平洋と日本海の分水嶺となっています。山頂からは伊吹山・加賀白山・恵那山・北アルプス等の三六〇度の展望が広がります。

（加賀白山を開いた泰澄上人が、加賀白山の山頂から見渡したとき、この山（能郷白山）が目にとまり、白山権現の分祀

大河原国有林から能郷白山を望む



を思いつき、開山し祠を祀ったと伝えられています。）

温見峠は、福井県大野市と岐阜県本巣市根尾を結ぶ国道一五七号線の峠。（最高点の標高は一、〇五〇<sup>メートル</sup>）

能郷白山の鞍部にあり、峠の名前は旧西谷村にあった集落の名前に由来します。現在も大野市温見として名前は残るも廃村となっており、当時の建物は一切残っておらず、岐阜県側の根尾村大河原（現在の本巣市根尾大河原）は、冬期無人集落となっています。

歴史的には、鎌倉時代は、越前府中（福井県越前市）と鎌倉（神奈川県鎌倉市）とを結ぶ最短ルートとして重宝され、江戸時代は結城秀康が関所を設けて福井藩

への敵の侵入を監視しました。

岐阜県本巣市根尾大河原から黒津間が路肩決壊により現在通行止めとなっています。

登山ルートは、岐阜県本巣市能郷谷から登るルートと、国道一五七号の岐阜県と福井県境の温見峠から登るルートがあります。（かけがえのない自然、大切な森林をみんなで守り育てましょう。）

### 能郷白山へのアクセス

名神高速ICから本巣市樽見より能郷を経て四・八<sup>キロメートル</sup>、約三時間三〇分。

温見峠からは二・四<sup>キロメートル</sup>、約一時間三〇分。



白山権現分祀の祠

ブナの原生林

